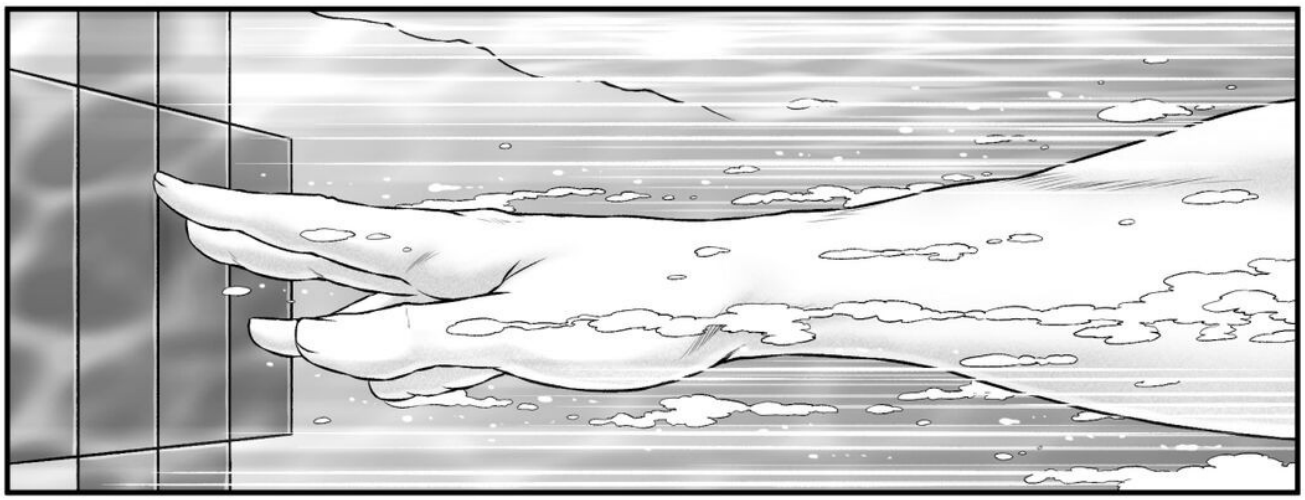
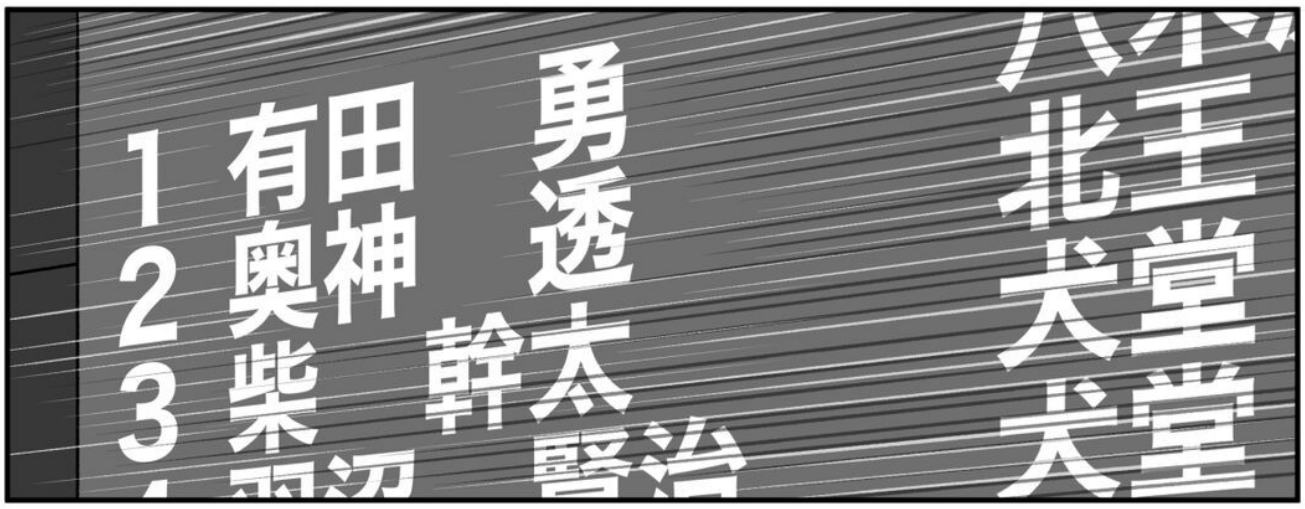

CRAZY SWIMMER
Second Stage
DOJIN
R18
adult only
presented by Lioreo


GODDESS HUNTER SERIES
クレイジースイマーSS
さぁ 男子400m個人メドレー決勝
いよいよ残り25mを切りました！
トップ争いはやはりこの二校！
水泳王国・八木尻高校と ライバル校の
北王高校だぁ～～～!!
ア・リ・タ!!
ア・リ・タ!!
ア・リ・タ!!
ア・リ・タ!!
八木尻のエース有田が
最終学年のラストレースで
ついに栄冠を手にするのか
オージン!!
オージン!!
オージン!!
オージン!!
それとも 北王の奥神が
八木尻の復活を阻止
するのか!?
ラスト5m！
タッチの差になりそうだ！
どっちだぁ～!!
ザヴィッ
ズヴァッ
ア・リ・タ!!
ぎゅっ…
presented by Lioreo






北王堂大堂
勇透太幹暠治
1田神
2奥柴
3


ファーン
有田だぁ～っ!!
…やった…
やった!
やったぞぉーっ!!
ファー
ファー
ファー
1年時はまったく無名のスイマーだった有田があの水原イズムを継承しついに覚醒!
水の女神・宗萌朱音が卒業した後の八木尻を牽引し 見事優秀の美を飾りましたぁ!!
アリタ!
アリタ!
アリタ!
必勝


えーーーっ！
有田キャプテン
帰っちゃうんですか？
祝勝会しましょうよ～！
そうっすよ～
水臭いっすよ～
有田はこれから
大事な用事が
あるんだそうだ
ごめん…
今日だけは
ちょっと…ね
なっ？
ミーン
ミーン
ミーン
そうですよ～！
今日は私たちが
奢りますからぁ！
先生っ…！
…はい…
さぁ今日は
ここで解散だ
お前たちも寄り道せず
帰ってゆっくり休め
間違っても
モルバーガーには
行くんじゃないぞ！
はぁ～～～い
うげっ
バレてる～
お疲れ様でしたっ!!
YAGISHIRI
えーーー!!
怪しい～
ウンウン
怪しい！
女の匂いがするわ♪


宗萌先輩…
やりましたよ
二年間頑張って約束通り…


これでやっと
宗萌先輩にもう一度…




YAGISHIRI


先輩…


久しぶり
有田くん


先輩っ…
来てくれたんですね！
応援に行くって
約束したでしょ？
おめでとう!!
見違えるくらい
成長してたから
びっくりしちゃった！
二年間本当に
頑張ったね！
YAGISHIRI
ありがとうございます！
自分でも信じられないん
ですけど 本当に水泳部の
みんなに助けられて
ここまでこれました！
特に水原先生には
感謝してもしきれないです
先生がいなかったら…
今の僕はなかった
私も同じ
水原先生と出会って私の
水泳は大きく変わったから…
有田くんのこともね
じつはそこまで心配して
なかったの
水原先生がいてくれたら
必ず目標に届くって
信じていたから


……
……
あの…先輩…
二年前 ここで
僕が言った言葉…
覚えてますか？
え…
もちろん
覚えてるよ
だから私たちは
今 この場所に
いるんだよ？
ぐっ
ドオッ


僕の気持ちはあの時と
まったく変わっていません
先輩のことが大好きです
先輩以外の女性は
考えられません
宗萌朱音さん
YAGISHIRI
僕と付き合ってください




はい
喜んで





こうして僕たちは再び付き合うことになった
自分に自信が持てず不安だらけだった
二年前の僕はもういない
今の僕は自信に満ち溢れていた
大好きな朱音さんと　この先もずっと一緒に
歩んでいくんだと――――

とは言ったものの　その前に僕は
大学受験をクリアしなければならず
合格するまではこれまで通り
先輩とは会わないことにした

二年間を経てやっと付き合えたのに
また会えなくなるのは辛かったけど
今は先輩と付き合っているという事実が
僕の気持ちを楽にしてくれた

水泳部を引退してからは
ひたすら受験勉強に
没頭する日々――

時々先輩と連絡を
取って励まして
もらいながら…

A判定!?
すごい!!

自信持って！
あともう少しだから
今の調子で頑張れば
きっと大丈夫だから！

月日はあっという間に
過ぎていき――

無事先輩と同じ
大学に合格した！

そして春休み――


一人暮らしをしている先輩の部屋で
合格祝いのパーティーをして
もらうことになった
いらっしゃい
何もない
部屋だけど
上がって♪
はっ…はいっ！
お邪魔しますっ!!


ここが先輩が生活してる部屋…
はいっ
適当にくつろいでてね
すぐに料理の準備をするから


すぅ～～～
すごく綺麗にしてある…それにいい匂い♪
先輩の香りでいっぱいだぁ～


ふふふ♪
さらに今日は初めて先輩の手料理も食べられるし♪
だめだ…幸せすぎるっ！

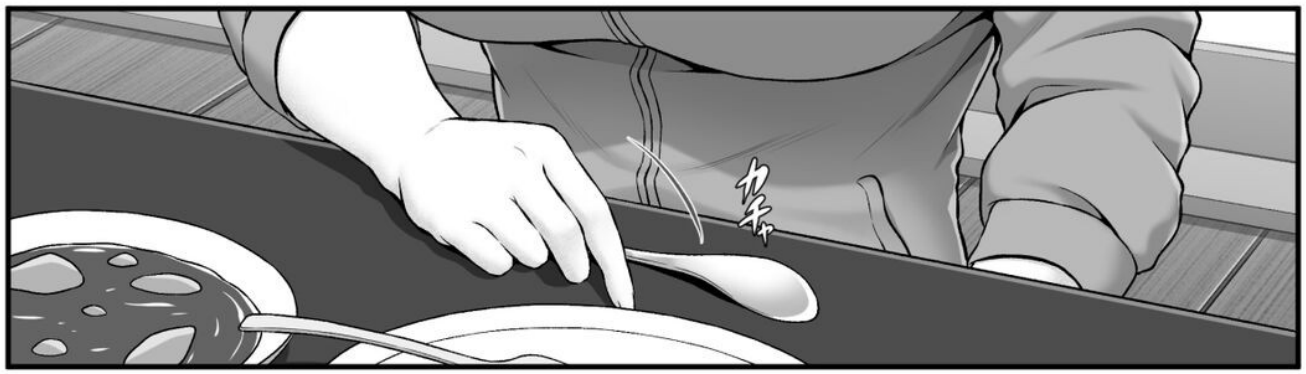

それにしても…


♪～
BELOVED
もし先輩と結婚したら…
毎晩…いやっ！
毎食こんなことを
言ってもらえるのか!!
こっ…これは…
ドキ
ドキ
ドキ
先輩の
エプロン姿…
最高すぎるっ!!
あなた～
ご飯できてますよぉ
先に食べます？
そ・れ・と・もぉ～
いつも通り
私から食べます？
今夜の朱音は
とびっきり
美味しいですよ♥
ポワ
ポワ
ポワ
…ん
うわぁぁぁ…
…たくん
有田くん


有田くんっ！
BELOVED
大丈夫？変だよ
はっ はいっ！大丈夫だすっ!!
だ…
だす？
料理できたから運ぶの手伝って欲しいな
はいっ！
うわあぁぁぁ〜!!すごいご馳走♪美味しそうですっ！
ふっふっふ〜♪腕によりをかけて作ってみましたぁ
それじゃあ乾杯しよっか
有田くん大学合格おめでとう！
ありがとうございます!!
チン!!

★シャンメリーです♪


そういえば先輩はもうお酒が飲めるんですよね
そうだね～有田くんはまだ未成年だから飲んじゃダメだよ♪まぁ私も飲まないんだけどね
有田くんが飲めるようになったら一緒に飲みたいかな
先輩…
さぁ 食べて食べてたくさん作ったから
はいっ！いただきます!!
美味しいっ!!
先輩！これすごく美味しいですよ!!
最高ですっ!!
ほんとっ？よかったぁ～いっぱい食べてね♪
本当にすごいです！先輩と結婚したらいつでもこんな美味しい手料理が食べられるんですよね♪
もぐもぐ
感激だなぁー!!
え…


カチャ


もう…
どうしてそういう事を
さらっと言うのかな 君は
えっ？


！
どうしたんですか？
先輩…

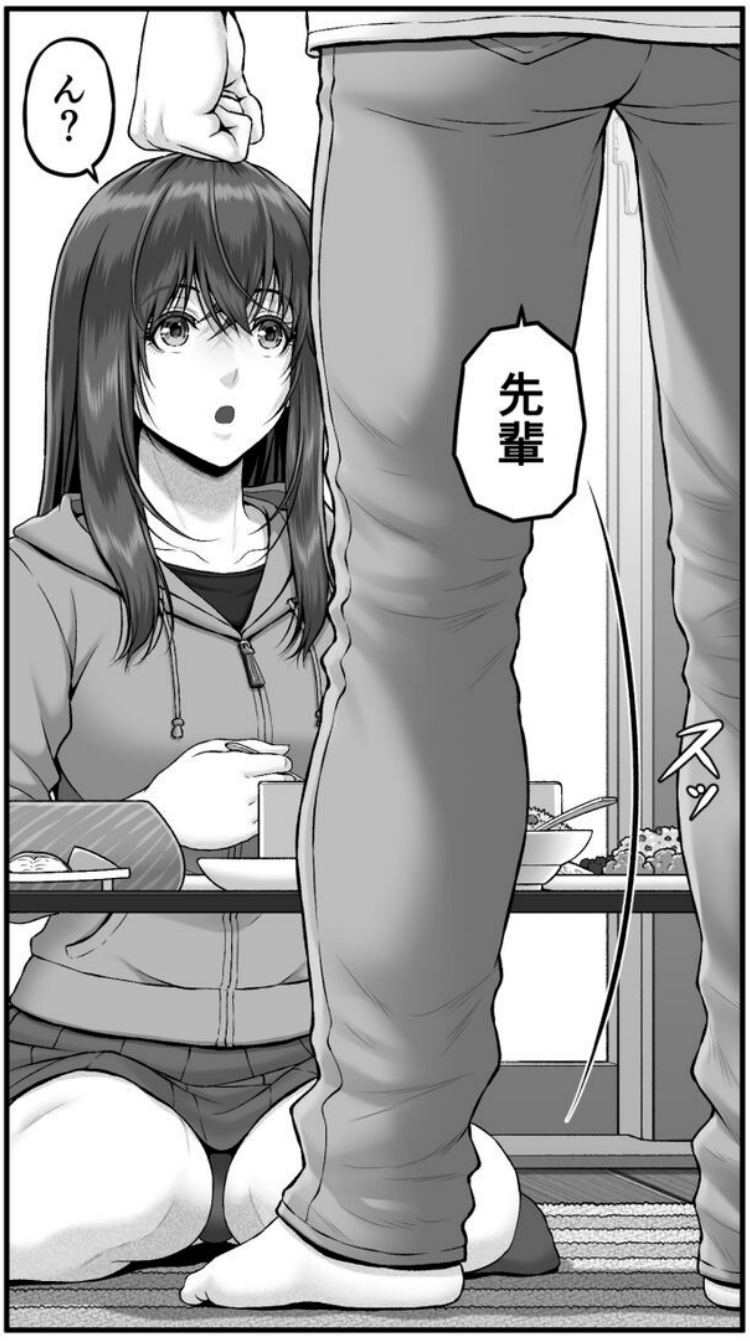

……
っていうか本当に
結婚できたらいいなって
僕が勝手に思ってるだけ
でしてその…えーと…


そういう事って…
あ…
結婚！
ああああっ!!
いやっ あの…
今のは違うんですよ！
本当に結婚するとか
そういう事ではなくて…


僕は真剣に
先輩との事を
考えていてですね…
くすくす
って…なんで
笑ってるんですか
先輩っ！
ごめんごめん
なんていうか…
有田くんは有田くん
なんだなぁ～って
ちょっと
安心しちゃった
ありがとう
有田くんの気持ち
すごく嬉しいよ
先輩…


でも…本当に先輩と結婚できたら
どんなに幸せだろう…
いつも二人でご飯食べて…
二人で……二人で？
舞い上がって肝心な事を
すっかり忘れていた！
今は…二人きりじゃないかっ!!


先輩の手料理も
食べたいけど…
でも今は…やっと
二人きりになれた今は…
先輩を抱きしめたい！
先輩とキスしたい！
先輩と…したいっ!!


ん？
先輩
スッ


どうしたの？
有田くん


え…？
先輩…


あの…先輩…
僕…もう…
あ…
有田くん…？
ぎゅっ


すみません…
冷静にならなきゃいけないと
思ってはいたんですけど…
でも 二年半頑張ってきて
いざ二人きりになれたと
思ったら…我慢できなくて…
!!
有田くん
それって…
で…でも 料理…
冷めちゃうよ？
ずいっ


あとで全部 一粒残らず
食べますっ！
でも…今は先輩がいいんです
先輩を…抱きたい
ずずいっ


もうっ…そんな風にストレートに言われたら…ダメって言えないじゃない
…ばかっ♥




ちゅ
ちゅぷ
ちゅぷ
ちゅぷ
ん
二年半ぶりの…先輩の唇
レロッ
ぴちゃ
ちゅぷ
は


初めて先輩を抱いた時の…
あの時の記憶が
鮮明に蘇ってくる…
未だに信じられない
あの宗萌先輩と
キスしてる現実が…
頭の中が……溶けそうだ…！
ん
ぴちゃ
レロッ
レロッ
あぁ
ちゅぷ
ちゅぷ
ちゅるる
ちゅっ
は
ほぁ
ほぁ
ほぁ


うん…
ジーッ
服…脱がしますね
なんだろう…
初めての時より
…緊張する！
ドキ
ドキ
ん…
ぱさっ
ごくっ
先輩の胸…
何度見てもすごく
綺麗で……大きい
ドド
ドド
ドド
あの…
有田くん
じっと見られると
恥ずかしいから…
ぷるん
すっ…すみません！
つい見とれてしまって…
ゴクッ


じゅるるるる
じゅるるるる～
ちゅぱっ
さゆっ
あっ
ちくびっ
んっ
だめぇ
はい
二年半の間…
ずっと先輩のことを
想っていました！
あっ
ずっと…
おにゃんっ
さゆっ
ずっと!!
前にも言いましたけど
僕の気持ちはあの頃と
変わらず…いえ
あの頃以上にっ…
先輩のことが大好きです！
有田くん…


すると…
だから…
自分だけじゃなく
先輩にも
この二年半分
気持ちよくなって
もらいたいんです
ちゅぷっ
ぬぷっ
あっ
ちゅぷっ
ちゅぷっ
すみません！
先輩…
痛かったですか？
ううん
違うの…
気持ちよくて
声が…
あんっ


ぱさっ
すごい体つき…
あの時と全然違う…
しゅるるっ
あっ…


有田くん待って
やっぱり先に
シャワーを浴びて
からに…


すみません
先輩…
もう…そんなの
待てませんっ！


がばっ
ちゅるるるっ
ちゅぷっ
ちゅぷっ
ぎゅむっ
ぐっ
有田くんっ！
あ
だめっ


あっ
ちゅくちゅくちゅく
あっ
じゅるるる


ハァ
ハァ
ハァ
ハァ
ハァ
ハァ
ビクン
ビクッ


ハァ
ハァ
ハァ

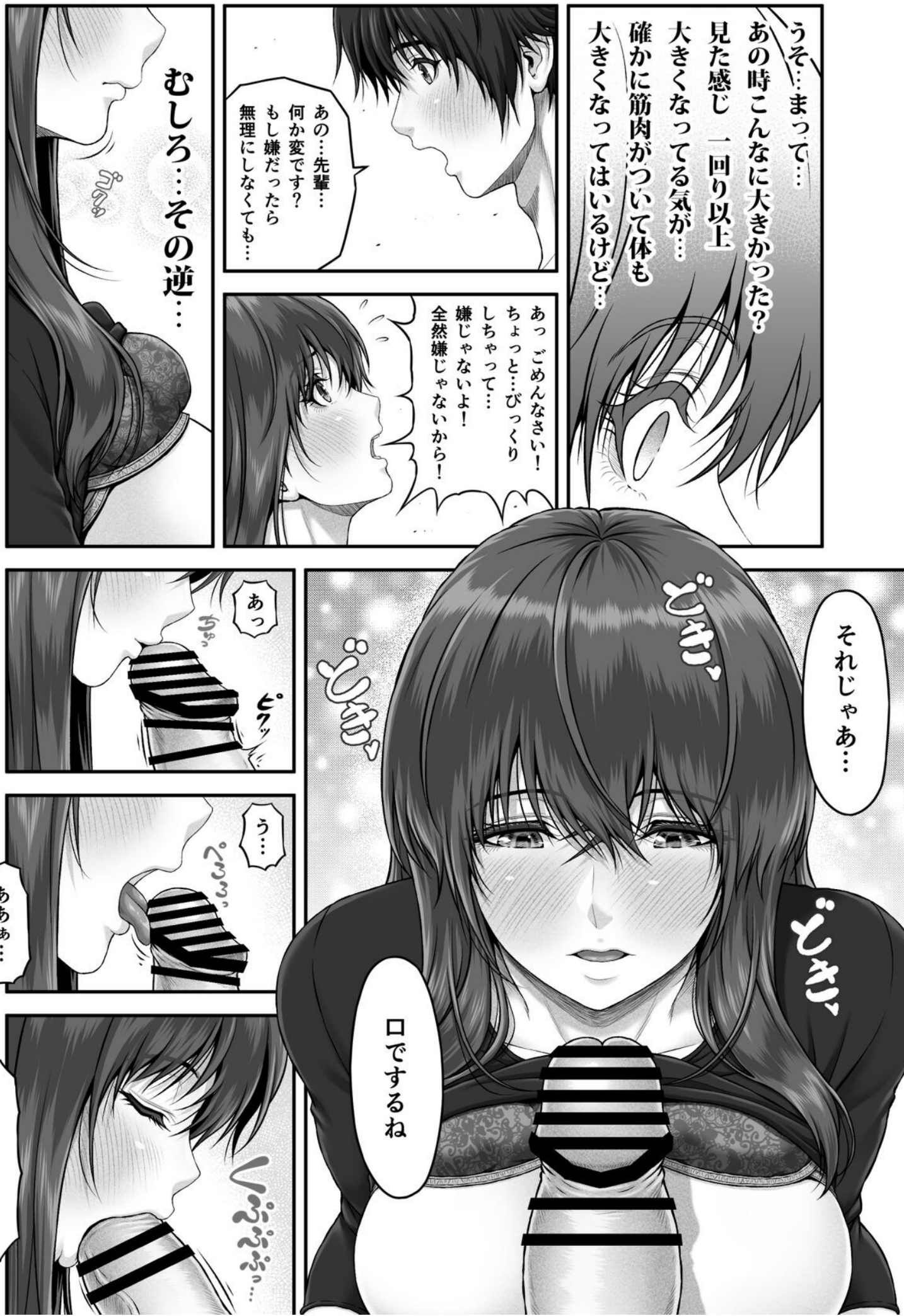

あの…
先輩…
大丈夫ですか？


先輩？


大きくなってる…


すごい…
はちきれそう


今度は私が
有田くんを気持ちよく
してあげたい…
有田くんのお祝いなんだもん
だめ？
いっ いいえ！
ぜひっ…
お願いします！
ぐっ
ビッ
ぐいっ
え…？


うそ…まって…
あの時こんなに大きかった？
見た感じ 一回り以上
大きくなってる気が…
確かに筋肉がついて体も
大きくなってはいるけど…
あの…先輩…
何か変です？
もし嫌だったら
無理にしなくても…
あっ ごめんなさい！
ちょっと…びっくり
しちゃって…
嫌じゃないよ！
全然嫌じゃないから！
ゴクッ
むしろ…その逆…
それじゃあ…
どきっ
どきっ
どきっ
口でするね
あっ
ちゅっ
ピクッ
う…
ぺろっ
ああぁ…
じゅぷぷぷっ…
はぁあ…先輩…


すみまっ…
ガッ
ビュッ
うっ!!


じゅぽっ
ちゅぽっ
じゅぽっ


ちょっ…
ちょっと待って
先輩…!
これ…
ちょっと
ヤバいかもっ!!


ビュルルッ
ビュッ…

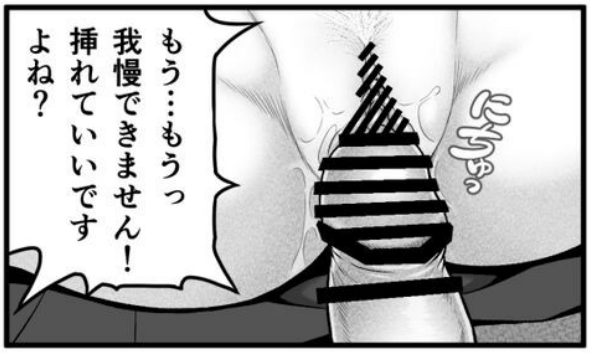

ぷはぁ
ハァハァ


あ…あぁぁ
先輩…先輩っ!
ビュルルッ
ビュッ
ビュルルッ
ビュッ


いっぱい…出たね
ちゃんとできたかな？
だったら
嬉しいんだけど…
とろぉ～～


くわ～…

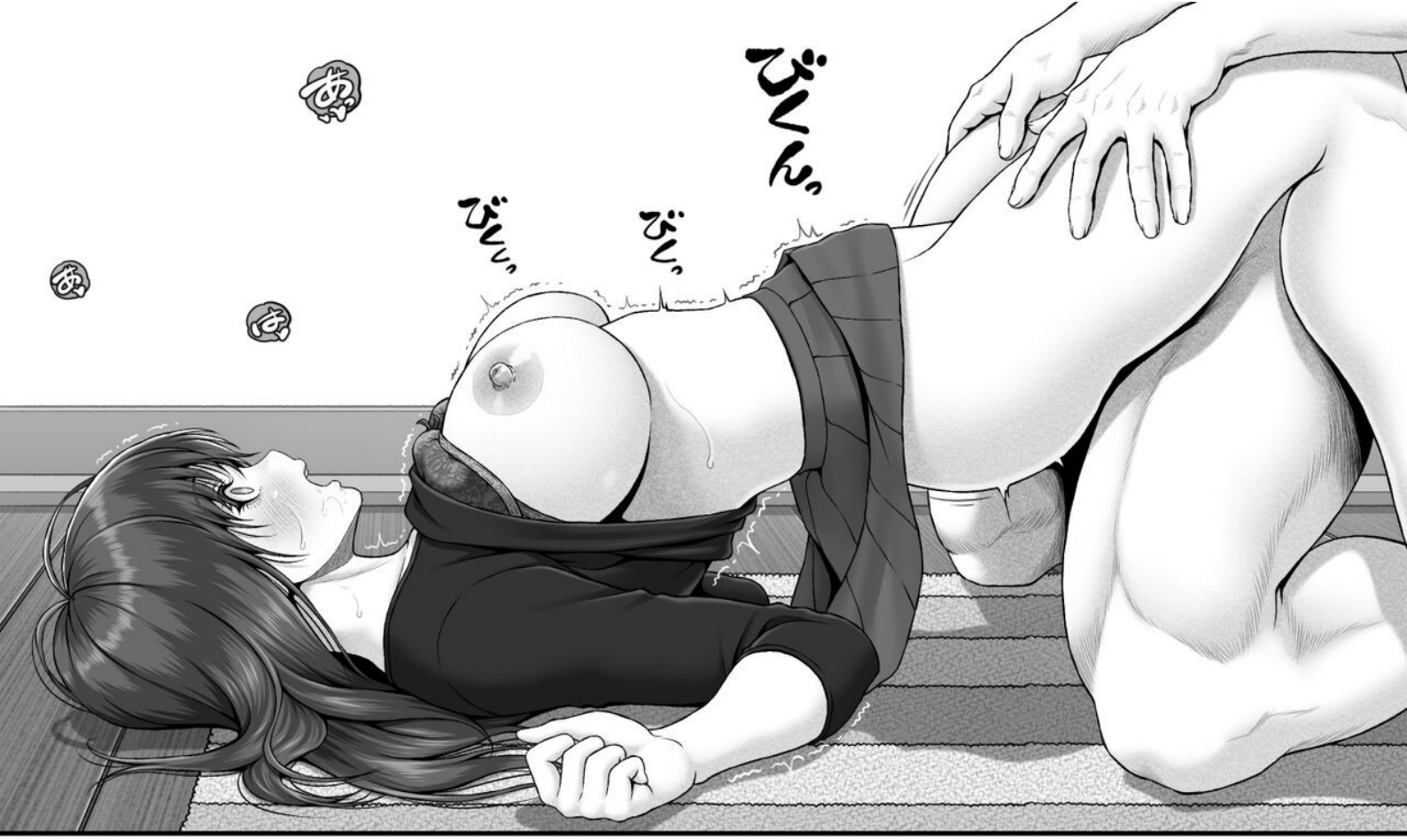

先輩っ!!
どさっ
きゃっ！


もう…もうっ
我慢できません！
挿れていいですよね？
にちぢっ


えっ…
えっ？
もう？
でも…今出したばかりなのに…


何言ってるんです？
僕は先輩となら
何回でも――
何十回でもできます!!
有田くん…


あっ
ビクン
何度でも…
ぐぷぷ…
ぐぷっ
抱きます!!


あっ
びくっ
びくっ
びくっ
あ
は


うっ…
締めつけが…すごい！
気持ちよすぎるっ…!!
さっき一回出して
なかったら…挿れただけで
速攻イッてたかも…


いっ…イッちゃった…
お腹の圧迫感が…前と…
比べものにならないっ…！
有田くんの形に変えられてる
のが…わかるっ…

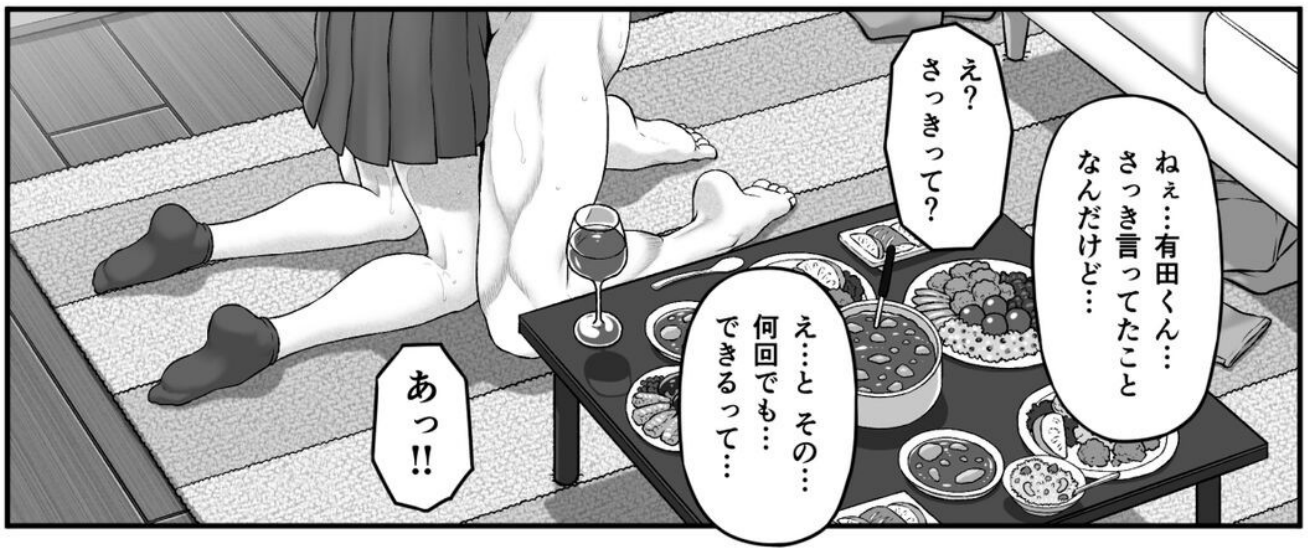

先輩…
動きますね
ぎゅっ
う…うん
ゆっくり…
お願い…ね


ぱちゅんっ
ぐちゅん
ぐちゅん
ぱちゅん
ぐちゅん
ぱちゅっ
ぐちゅん
あっ
あ
ん
ぱちゅっ
だめだ…優しくしたいのに…
先輩の…色っぽい喘ぎ声が
無意識に腰の動きを
加速させていくっ…！
ぱちゅんっ
くっ…
先輩の中…
めちゃくちゃ
気持ちいいっ！
あっ…有田くんのも…
奥っ…すごくっ…
気持ちいいっ…
こんなの…っ
溶けそうです！
もっと…
もっと…
突いてっ♥


じゅぶっ
ぱっ
ぐちゅっ
ぶぢゅっ
じゅぶっ
ぶぢゅっ
そんな風に…
お願いされたらっ…
もうっ…
止められないですよ!?
もっと…
もっと奥までっ!
ぐぢゅっ
先輩!
ばぢゅっ
ぱぢゅっ
ぶぢゅんっ
先輩っ!
ぐぢゅっ
先輩っ!!
そろそろ
イキますよ
ばぢゅっ
いいですか?
先輩っ…
ぐぢゅんっ
ぶぢゅんっ
!!
うん!
いいよっ…
たくさん…出してっ♥
たぷんっ
ぶるんっ


あああああっ!!
はあっ!!
あっ
ビュルルル


ビュ～～～ッ
ビュルルルッ
ビュルッ
ビュルルッ…
ビュ…
ぬちゅあっ
ぬぽっ
すみません…
…先輩…
……
すごく…気持ちよくて
また…勝手に中に…
すみませんっ…
謝らなくて
いいの
…え？
お祝いパーティの日をね…
今日にしてもらったのも
……そういうことだから…
だから…いいの


ねぇ…有田くん…
さっき言ってたこと
なんだけど…
え？
さっきって？
え…と その…
何回でも…
できるって…
あっ!!

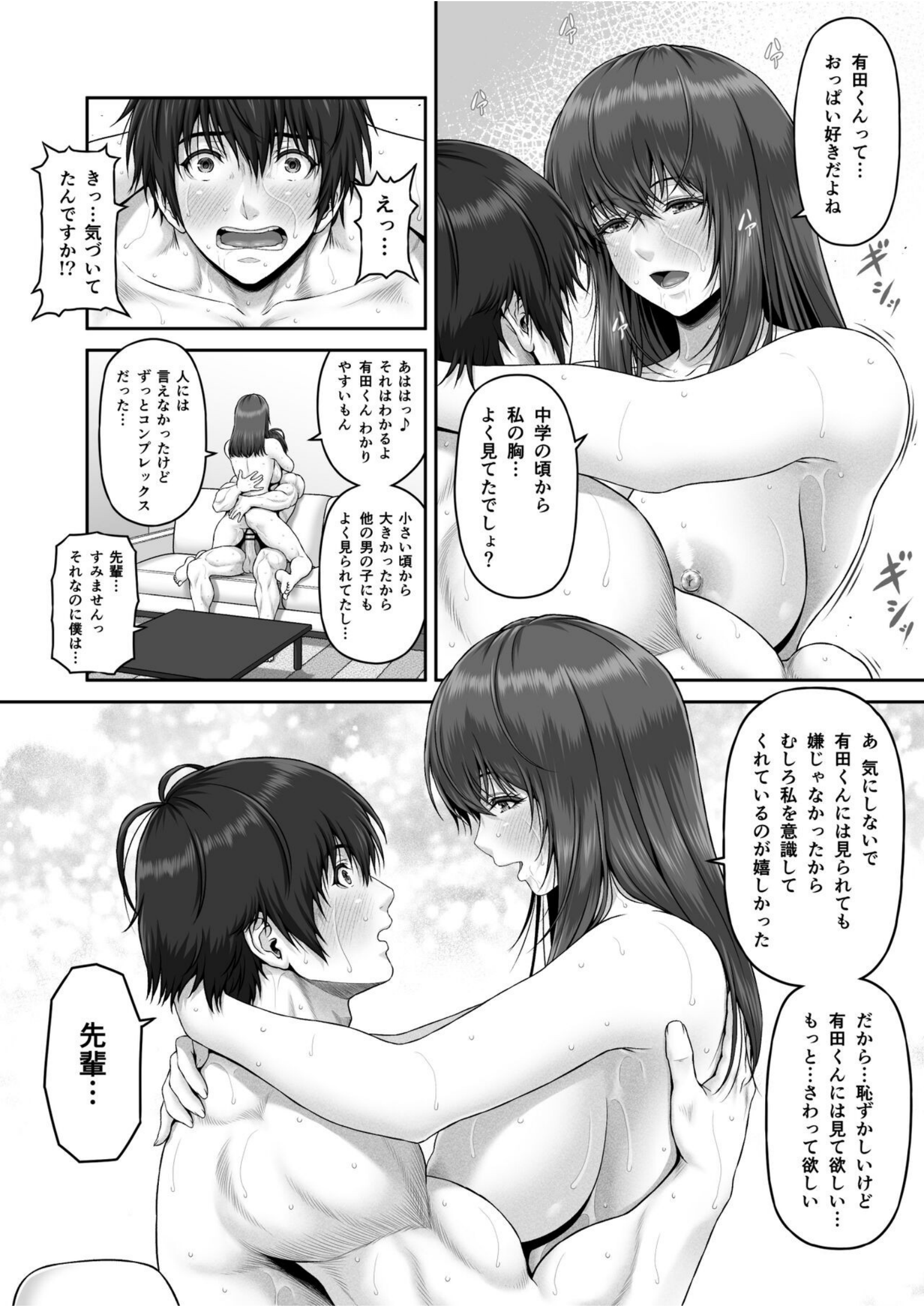

ああれはですね
その…勢いといいますか
僕は…それぐらい先輩と
したい…というか…
あっ！
もちろん無理にとか
そういうんじゃない
ですからね！
先輩の嫌がるようなことは
絶対にしたくないんで！
絶対に！
……


それじゃあ…
もう一回…できる？


へ？


もっ…
もちろんですっ!!


あんっ!!
パン
パン
パン
パン
パン
ギシッ
ギシッ
ギシッ
ギシッ


有田くんって…
おっぱい好きだよね
ハァ
ハァ
ハァ
ハァ
ギシッ
ギシッ
中学の頃から
私の胸…
よく見てたでしょ？
えっ…
きっ…気づいて
たんですか!?
あははっ♪
それはわかるよ
有田くんわかり
やすいもん
小さい頃から
大きかったから
他の男の子にも
よく見られてたし…
人には
言えなかったけど
ずっとコンプレックス
だった…
先輩…
すみませんっ
それなのに僕は…
あ 気にしないで
有田くんには見られても
嫌じゃなかったから
むしろ私を意識して
くれているのが嬉しかった
だから…恥ずかしいけど
有田くんには見て欲しい…
もっと…さわって欲しい
先輩…


そんなのっ…
ぶにゅん
そんなの
いくらでもさわって
あげますっ!!
でも先輩！間違っても
こんな事 他の男に
言わないでくださいよ？
いっ 言わないよっ!!
言うわけないっ！
もにゅっ
もにゅっ
ぶにゅっ
先輩の…
おっぱいはっ！
ぶるぶる
僕のっ！
僕だけの
ものですからっ!!
ぶるぶるぶるぶる
だからっ！
だからっ…
絶対にっ！
絶対にっ…
パンッ
パンッ
パンッ
ほぁ
あ
ん
うんっ！
私の体っ…
好きにしていいのはっ
有田くんだけ
だからぁっ!!
ギッ
ギッ


先輩っ!!
ぐぃ
ぐぃ
あああっ
ビクン
ビクン
ギシ


はぁあ…
あ…
ビュルルル～～～
ビュッビュッビュッ…
三回目なのに…
すごいね…
まだっ…出てる
ビュ…
すみません…
あまりに気持ち
良すぎて…まだまだ
おさまりそうにな――
あ…
ぐっ
あはは♪
ご飯…食べよっか
そっ そうですね！
でもその前に
お風呂だね
二人ともすごい汗…
一緒に入ろっ♪
はいっ!!


はぁ～…
気持ちいいね～
ピチャン
はい！
もう…最高です
なんか…今でも
夢みたいです
ん？
なにが？
だって…先輩と別れてから
二年間ずっと水泳一筋の
生活をしてて 引退後は
修行僧みたいに受験勉強を
してた僕が…
今は大好きな先輩と
一緒にお風呂に入って
るんですよ？
信じられませんよ…
あははっ♪そうだね～
急接近しちゃったね
私もすごく不思議な気持ち
それに…
すごく幸せ
僕もです
幸せすぎて…
怖いくらいです
大丈夫♪
現実だよ
ところで…
はい？
なんです？
どうして今日は
『先輩』なの？


えっ!!


そ…それはですね
…えと…
夏の大会のあの場所で
告白してくれた時は
『朱音』って呼んで
くれたじゃない?
でも今日は『先輩』に
戻ってる
今日だけじゃなくて
受験期間に連絡とってる
時も『先輩』に戻ってた
なんだか寂しいなぁ~
『先輩』は
うっ…


す…すみません!
あの時は自分でも頑張った
というか自信の塊みたいな
状態だったので…
でも今日 こうして
先輩が一人で暮らしてる
部屋に来たら…なんかこう…
また先輩がすごく大人に
見えてしまって…
つい癖で
『先輩』って呼んで
ました…
あの…これからは
気をつけますから!
『朱音さん』って呼んで
いいですか?
うん
そうしてほしい
『朱音』でも
いいんだよ?
いやぁ…さすがに
それはまだ
心の準備が…ははは
そんなことだろうと
思ってた♪


それじゃあ
これからは私も
『勇くん』って
呼んでもいい?
は…はいっ!
もちろんです!!
ぜひ
お願いしますっ!!


ふふふっ
なんか私たち また一つ
近くになれた気がするね
まぁ距離的には今でも十分
近いんだけど♪
朱音さん…
はいっ
さてと…
そろそろ上がろっか
ご飯 温め直さなきゃ
ちゃぷ
ちゃぷ


はぁ～
気持ちよかった♪
さぁ ご飯だご飯だ
ザパァ


綺麗だ…


水泳の時以外では
初めて見る…
朱音さんのうなじ


ぽお～～…
そして…


相変わらず 眩しいくらい
透き通るような白い肌
もう…だめだっ


朱音さんっ!!
きゃっ!
ぎゅむっ
ザバァ!!
びっくりしたぁ…
なになに?
急にどうしたのっ?
すみません
朱音さん…
スイッチ入っちゃ
いました…
ここで…
もう一回だけ…
えっ…ここで?
でも今 汗流した
ばかりだよ?
わかってます
無理を言ってるのは…
嫌だったらやめます!
我慢しますっ!!
むにゅんっ
朱音さんが
大好きだからっ…!!


もぉ～～っ
その言い方はずるいよ…
私も勇くんとしたいっ


ちゅっ
ちゅっ
くちゅっ
くちゅっ
ちゅっ
んっ
んんっ
くちゅっ
くちゅっ
じゅるるっ
ちゅっ
ちゅっ
んっ
ビクン
あっ
ちゅむっ
ちゅむっ
はぁ
あっ…まって！
首は弱いの…
だめだってばっ…
ハァ
ハァ
ハァ
ぺろ
ぺろ
ぺろ
ビクン
あ
あん
朱音さんのうなじ…
めちゃくちゃ綺麗で
エロいです…
もうっ…んっ
恥ずかしいからぁ…


朱音さん
いきますよ？
うん…きて♥
ずぷぷぷっ
はぁぁっ
あ
うぁ…締まる
みちっ
みちっ
みちっ
あ
あ
あんっ
だって…
だってっ！
気持ちいいん
だもんっ
パンッ
ぶるんっ
ぶるんっ
ばしゃ
ばしゃ
あ 朱音さんっ
さっきより締めつけが
すごいですよ…？


勇くんっ…奥っ
とどいてるっ！
気持ち…いいっ
もうっ…すぐに
いっ…イっちゃいそう
いいっ？
イってもっ…
いいっ？
僕も一緒に
イキますから!!
一緒にっ!!
朱音さん…
もう少しだけ
頑張って！


うっ…く！
もう少しっ
勇くんっ…
まだっ？
もう少しだけ…
頑張ってっ！
まだっ？
ぶるんっ
もうっ…
だめっ
限界っ…
いいですよっ…
朱音さんっ！
イキますっ!!
僕もっ…
イクっ…
イクぅ
ぶるんっ


朱音さんっ!!
ぱあぁんっ
勇くんっ
ぴゅっ
ぴゅっ
ばしゃあっ


あっ
はっ
ぐっ
あっ
ぶちっ
ビュッ
ビュッ
ビュビュルルル


朱音さん…
一つ…提案というか…
お願いがあるんですが…
むにゅっ
もにゅっ
なぁに…？
このまま…ベッドに
行きませんか？
今日は…今日だけは…
もっともっと…
朱音さんを…抱きたいです
勇くん…
私も…
同じこと…
考えてた
ボト
ボトッ
行こ♥


うぁっ
くっ
ぱちゅっ
ぱちゅっ
ぱちゅん
はぁっ
あっ
ギッ
ギッ
ヤバッ
ギッ
ぱちゅん
ぱちゅっ
初めてだから
わからないけど…
こんな感じで
いいのかな?
ぐにゅっ
にちゅっ
ぱちゅん
ああぁっ…
朱音さん!!
は…はいっ
めちゃくちゃ
いい感じです
うっ…
イキそっ…
我慢しないで
いいからね…
ぱちゅっ
イキたくなったら
いつでもイッて
いいよ
ぱちゅん
ぱちゅんっ


ビュルルル!!
あっ
びくっ
びくっ
っ…


びゅっ
びゅるるるっ
びゅっ
ぴゅっ
すごい…あったかい…
まだこんなに出るんだね
気持ちよかった？
は…はいっ…
ハァ
ハァ
ハァ
ハァ
ハァ
んっんっおぇ～


膣とは…全然違う
ふわふわ柔らかくて
滑らかに包み込まれる
この密着感…
この感触は…
…反則だ


はぁ…


おそうじ…
ぺろ♥
ぺろ♥
ぴゅっ…
してあげるね♥


ばっ
はっ？
朱音さん!?
あっ…


ちゅぱぱっ…


あの…それは嬉しいんですけど今かなり敏感になっているからヤバいです…
…って聞いてます朱音さん？
朱音さんっ!?
じゅぽっ
ごぽっ
うぁっ…
ちゅぽっ
くっ…気持ちぃッ
ぺろっ
はぁっ
い…いやこれおそうじってレベルじゃないっ…ですって！
うっ…くだめだ…また…
ジュボッ
ジュボッ
ジュボッ
チュボッ
ああああぁっ!!
ちゅるるるるっ
にちゃ
にちゃ
にちゃ


うっ
ビュビュビュビュっ
あっ
ビクッ
じゅっ
じゅるるっ
じゅるっ
くっ
はあっ
ビクン
ああっ!!!
ビュルルルッ
ビュビュビュっ
ビュビュッ!
ビュッ!
じゅるるる


あはは…ちょっと
頑張っちゃった
どうだった？
気持ちよかった？
はい…とても
気持ちよすぎて
意識飛ぶかと
思いましたよ


ギシッ


よかった…
勇くん
大好きだよ


朱音さん…


今度は僕が朱音さんを気持ち良くしてあげる番です
ゆ…勇くん大丈夫？さすがに少し休んだほうが…
何言ってるんですか朱音さん♪
にちゃっ
にちゃっ
にちゃっ
えっ？
ぬぷっ
休ませてくれなかったのは朱音さんですよ？それに僕はまだまだ全然イケます！
朱音さんを目の前にして萎えることなんて…ありえませんからっ!!
ズブブ
んっ!!
あああっ!!


じゅぼっ
ちゅぼっ
じゅぶっ
じゅぼっ
あっ
あっ
はっ
あんっ
ぶるんっ
ぶるんっ
ギシッ
ギシッ
ギシッ


キス…
キスしてっ
ギシッ


ちゅうううっ
んんっ
ちゅぴっ
ちゅぴっ

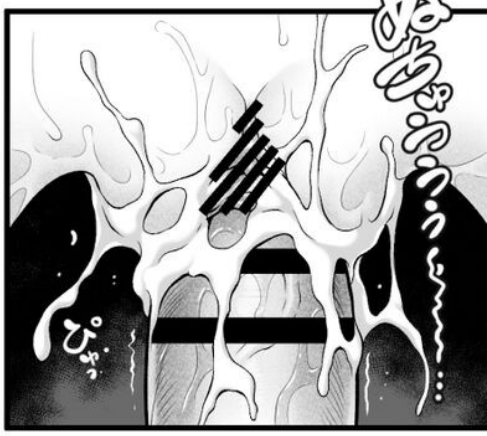

あんっ
奥っ
すごいっ
ぐちゅっ
ぐちゅっ
ぐちゅんっ
たぷんっ


んむっ♥
ギッ
パンッ
はむっ♥
ちゅぱ。
ちゅぱ。
あむっ♥
ギシッ
じゅぽっ
ぶぴぷっ
あんっ♥
ハァ
朱音さんっ
勇くんっ♥
勇くんっ♥
朱音さんっ


ばちゅっ
ばちゅん
ぎっ
ぎっ
ぎっ


あっ!!
ん!!
はあああっ!!
ぐりんっ
ビクビク
ぴちゃ
くあっ!!!


びゅうぅぅぅ～～っ
うっ…
くっ
びゅっ
びゅびゅびゅっ
びゅっ…
びゅ…
どぷんっ
あっ
ずにゅにゅにゅ～～っ
はぁ～ん
にちゃ
にちゃ


ぬぷぷぷぅぅ～～…
ぴゅっ


気持ちよすぎて
止まらない…
体の相性が
良すぎるのか…
こんなに射精るの
初めてだ…
あの時以上に…
すればするほど
したくなるっ！
ハァ
ハァ
ハァ


ごぽぉっ
あぁ


ごろんっ


ゆっ…
勇くん!?
えっ？
ギシ


ぬぷっ
勇くんっ…ダメっ
今イッたばかりで
すぐは…アッ♥
はあぁぁぁ…♥
ハァーッ
ハァーッ
ぬぷぷぷっ…
ハァーッ
すみません
朱音さん…
でもっ…全然
我慢できなくて…
全然…おさまらない
んです！
パン
パン
パン
ぐぢゅっ
ぶぢゅっ
ぬぢゅっ
ぶぢゅっ
あっ
ぐっ
ぎっ
ぎっ
ぎ


じゅぼっ
じゅぼっ
ぐぽっ
ぐちゅんっ
どちゅんっ
ばちゅんっ
ギシッ
ギッ
バキンッ
ゴリッ
ゴリッ
どちゅんっ
ぴゅっ


勇くん…もう…
イキ過ぎて…
だめ…おかしく…
なっちゃう♥
いいじゃないですか
おかしくなっても…
僕の…まだ知らない
朱音さんの顔を
…見せてくださいっ
僕だけしか知らない
朱音さんの顔を…
もっと増やしたい！
ちゅっ
ちゅうっ
んっ
んんっ
にちゅっ
ちゅるるっ
ぐぐっ
ビュルルッ
ビュビュビュッ
ビクンッ


ビュ〜〜〜〜ッ
ビュ〜〜ッ
ビュルッ
ビュルルッ
ビュル…
ビュ…
ハァ…
ハァ…
ハァ


もとよりそのつもりですから！
僕以上に朱音さんを愛している男はいないということを…
朱音さんに…
朱音さんの体にっ…
教えてあげますっ!!
朱音さんは僕が幸せにしてあげたいっ！
ずっと…
ずっと!!
勇くん…
だから…
もう少しだけっ
ぐぷぷぷ…
あっ
あっ
あっ
はぁぁっ!!
付き合ってくださいっ!!
ぐっ!!
ぶちゅんっ


はぁ
あっ
パチュ
ぐっ
パチュ
ぶるん
ぶじゅっ
パチュ
あんっ
パチュ
ぐちゅっ
ギシ
朱音さん
横になって
ぐいっ
…え？
うん…♥


あんっ
はっ
んっ
あ
ぐぢゅっ
ばちゅっ
あ
ぐぢゅっ
ぶぢゅっ
ぐぢゅんっ
ギッ
ぐるんっ
ギッ
あ
はっ
ごぷっ
ごびゅっ
ぶぴゅっ
あんっ
朱音さんっ！
愛してますっ
朱音さん！
勇くんっ
勇くんっ
ギッ
ぶぢゅっ
ぐぢゅっ
ぶぢゅっ
ギッ
勇っ…くんっ
これっすごくっ
気持ちいいっ
好きっ
好きぃっ
ギッ


ビッ
ビッビッビッビッ
ビッ
ビッ


ハァ
ハァ
ハァ



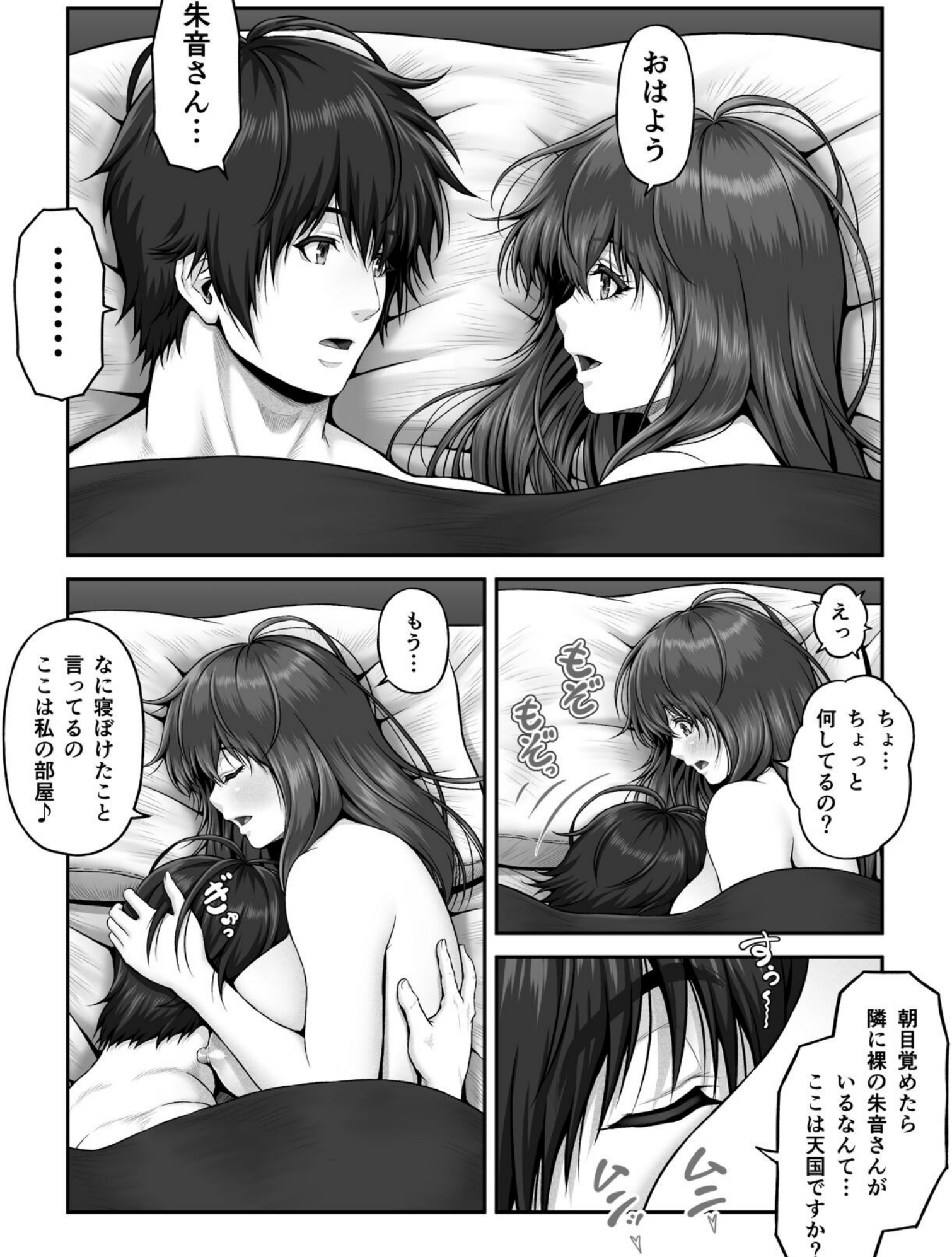







チュン
チュン
チュン


起きた？


朝目覚めたら
隣に裸の朱音さんが
いるなんて…
ここは天国ですか？
すぅ～～
ムニ
ムニ
えっ
ちょ…
ちょっと
何してるの？
もぞ
もぞ
もう…
なに寝ぼけたこと
言ってるの
ここは私の部屋♪
ぎゅっ
朱音さん…
……
おはよう


朱音さん…
今更なんですけど
一つ質問して
いいですか？
なーに？
あの時…僕が初めて
朱音さんに告白した時
…どうしてOKして
くれたんですか？


正直僕なんかより
勉強も水泳も…
見た目だって自分より
いい男なんていくらでも
いたはずです
実際朱音さんは
他にもたくさん告白
されていたし…
だから…なんで
自分なのかなって…
うーん…それは～
勇くんのことは
中学の頃から見てきたし…
素直で頑張り屋さんだし…
それに…たぶん勇くんが
シンプルに私の好みの
タイプだった…
というのもあると
思うんだけど…
そっ…そうだったんですか!?
あとはそうだな～
勇くんは…なんていうか
謎の信頼感があるんだよね
あぁこの人はずっと
私のことを見てくれるん
だろうなぁっていう…
ちょっと…うぬぼれかな♪


いっ…いいえ！
そんな全然っ!!
ばっ
ていうか朱音さん以外の
女性は考えられないって
前にも言いましたけど
本当ですから！
だから…そのっ
…えと…
がしっ


すぐにというわけには
いかないことは重々承知
してますけど…いつか
僕が朱音さんに相応しい
一人前の男になったら…
そしたら…
僕と
結婚してください！
私ね 勇くんのその…
ちょっと暴走気味なところは
あるけど 私に対して真っすぐに
気持ちをぶつけてきてくれる
ところ…大好きだよ
だから…そうだなぁ
プロポーズ予約第1号
ということで承りました！
朱音さん…
じゅ～～ん
クスッ
あの…
朱音さん？


ん…？
えっ？
予約…1号？


待ってください
朱音さん！
1号ということは…
つまり他にもプロポーズを
してくるかもしれない男が
いるってことですか？
すでに？？
ちょ…
そこ大事なところ
ですから！
ご飯～♪
ごはん～♪
さぁ～
どうだろう♪
ね お腹すいたね
ご飯食べよ？
あ～～～もうっ…
先輩っ!!

そして月日は流れ――

幸せすぎる大学生活を送った後
僕は教師として八木尻高校へ戻り
水原先生の後任として水泳部の
監督になった

一方 朱音さんは大学在学中に
水泳世界大会に出場し 見事
金メダルを獲得した
残念ながら水原先生の記録には
あと一歩届かなかったけど
それでも歴代2位の記録を樹立した

その後 朱音さんは競技の
第一線から退き スイミング
コーチとして 主に子供達の
育成に尽力した



そして・・・
朱音さんと出会ってから11年
僕が24歳 朱音さんが26歳の夏
僕たちは新しいスタートを切った



この先の長い人生 まだまだ
いろいろなことがあると
思うけど――


これからも僕たちは
ずっとずっと一緒です。
Thank you so much
for reading!

CHARACTER



宗萌(ムネモ)　朱音(アカネ)(20)

◆海洸(かいおう)大学２年生。
大学に入ってからもエース級の活躍を見せ、在学中に出場した水泳世界大会で、水原に次ぐ歴代２位の記録で金メダルを獲る。
競技者としての人生にこだわりはなく、大学卒業とともに第一線から退いた。
有田が大学を卒業したタイミングで同棲を開始し、その2年後に結婚する。
また、スイミングコーチの活動が一段落した28歳の時に第一子を妊娠する。



有田(アリタ)　勇(ユウ)(18)

◆八木尻高校３年生。
水原の指導の下２年間厳しい練習を重ね、スイマーとして大きく成長した有田は、高校最後のレースでライバル校・北王高校のエース奥神との一騎打ちを制し、宗萌との約束を果たす。
大学以降有田自身は競技者として目立った成績を残すことはなかったが、宗萌をサポートする中で水泳の楽しさを広めていく活動に興味を持ち、教師として八木尻高校に戻ると同時に、水原の後任として水泳部の監督を引き受けることになる。

AFTERWORD

どもども、ギリシャ神話大好きLioreoです。
今作でも神話要素をひっそり仕込ませていただきました。
まずは冒頭２ページ目の表示盤に書かれた名前と高校名。
上から
１　有田　勇　　八木尻　→タリア・ムサイ/ギリシャ
２　奥神　透　　北王　　→オーディン(オージン)・トール/北欧
３　柴　幹太　　犬童　　→シヴァ/インド
４　羽沼　賢治　　犬童　　→ハヌマーン/インド
と、こんな感じになってます。
またクレイジースイマー本編では名前すら出てこない女の子たちですが
宗萌親衛隊である彼女たちにも神話要素がほんのり仕込まれていまして、
①堀村愛結　→　ポリュムニア
②織壁ほたる　→　カリオペ
③照伏麗子　→　テルプシコレ
④恵良戸祥子　→　エラト
全員ギリシャ神話の【記憶の女神ムネモシュネ】の娘たちです。
つまり宗萌ちゃんの娘♪
いつか彼女たちをメインにした漫画も描いてみたいですね。



クレイジースイマーFS/１ページ目より



はい。
ということで、ようやく続編を描き上げることができました。
作中ではFSから２年～２年半後のお話なんですが、実際の配信間隔も同じほど空いてしまいました。。。
ただ、期間が長かった分、宗萌ちゃんと有田くんのお話に関して描きたかったものはほぼ描くことができたので個人的には満足しています。
結婚後のお話も考えていないわけではないのですが、とりあえずこの二人については完結ということで。
とはいえ、クレイジースイマー関連の作品はまだまだ描きたいものがたくさんあるので･･･、
またいつかクレイジースイマーの世界でお会いしましょう。

ではでは、長々と読んでいただきありがとうございました！

Lioreo

